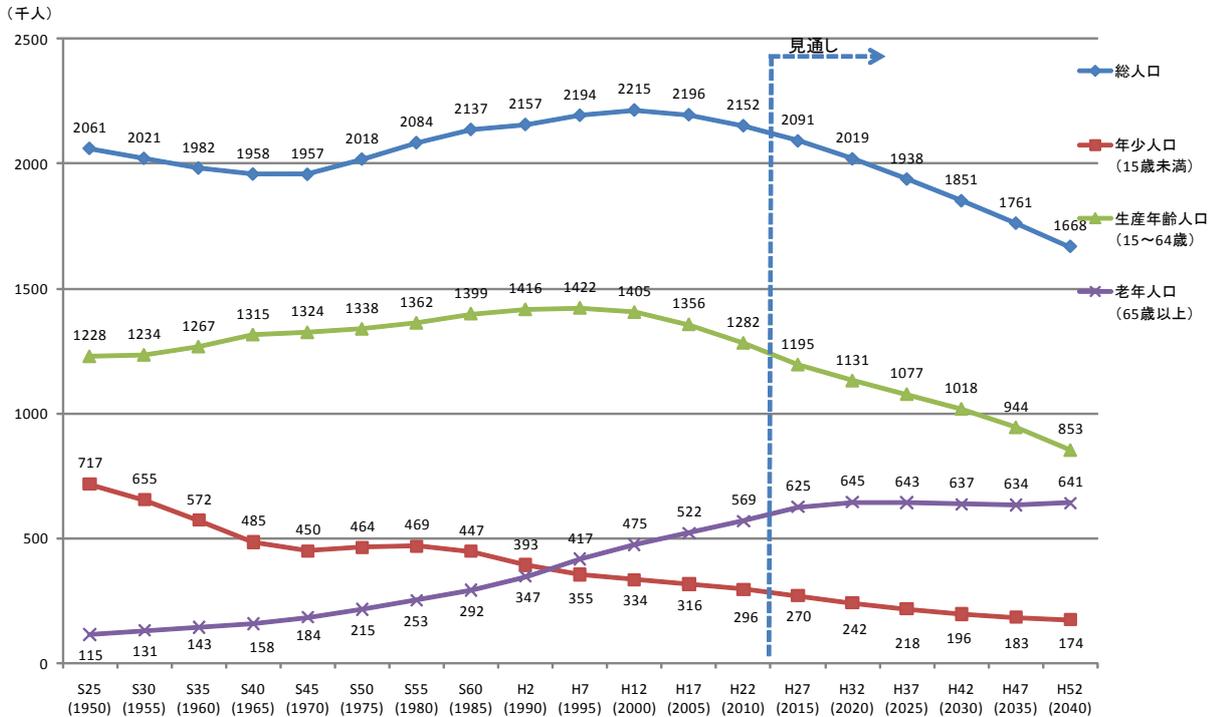


# 少子化・結婚の現状

## 1 人口推計

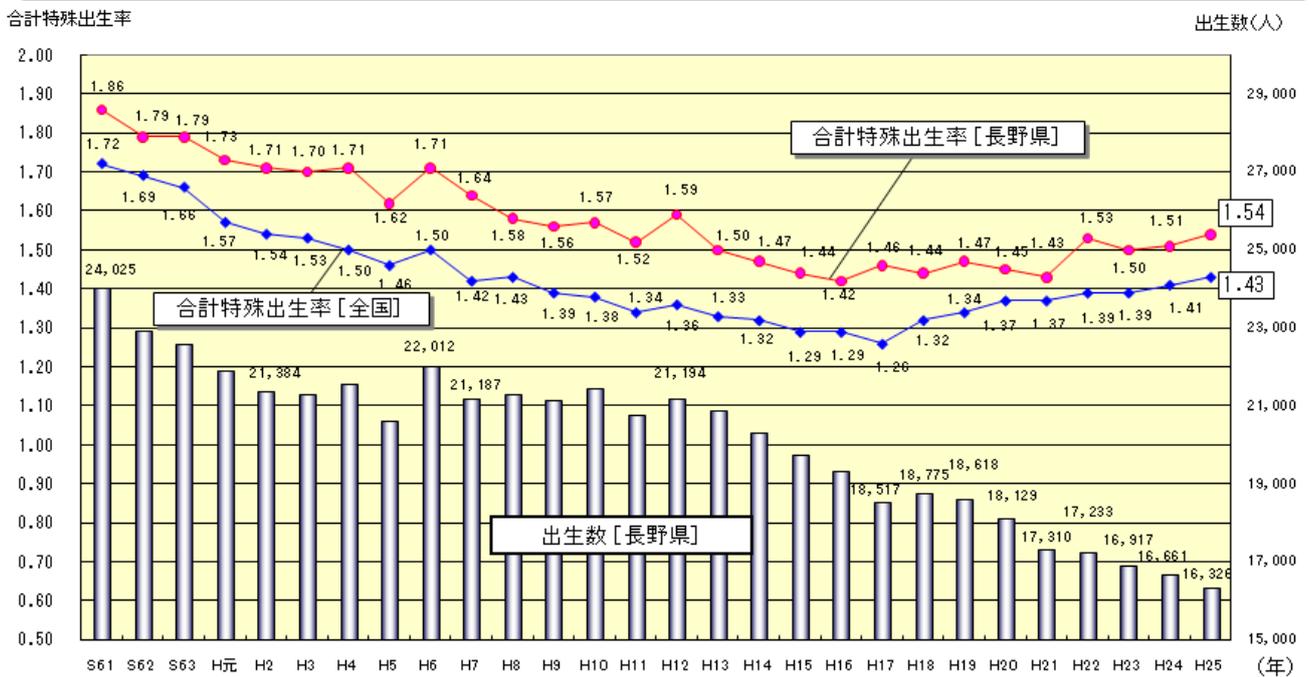
- ・長野県の総人口 H22:215万2千人 ⇒ H52:166万8千人 (**48万4千人、22.5%の減少**)
- ・生産年齢人口 H22:128万2千人 ⇒ H52: 85万3千人 (**42万9千人、33.5%の減少**)
- ・年少人口 H22: 29万6千人 ⇒ H52: 17万4千人 (**12万2千人、41.2%の減少**)



(資料)2010年までは総務省「国勢調査」。将来推計は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」。  
注:総人口には年齢不詳を含むため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。

## 2 合計特殊出生率

- ・H25の長野県の**合計特殊出生率**(概数)は、**1.54**で前年と比べて**0.03**ポイントの**増加**だが、**出生数**は、16,326人で、**335**人の**減少**。  
今後も出生数の減少は**続く見込み**。

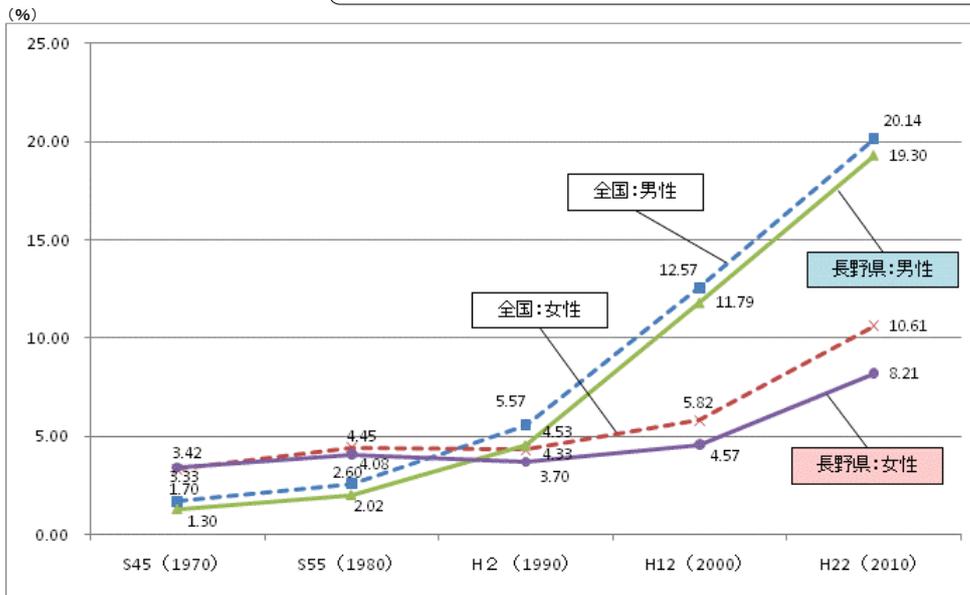


(資料)厚生労働省「人口動態統計データ」

### 3 未婚・晩婚化の進行

#### 3-1 未婚者の割合

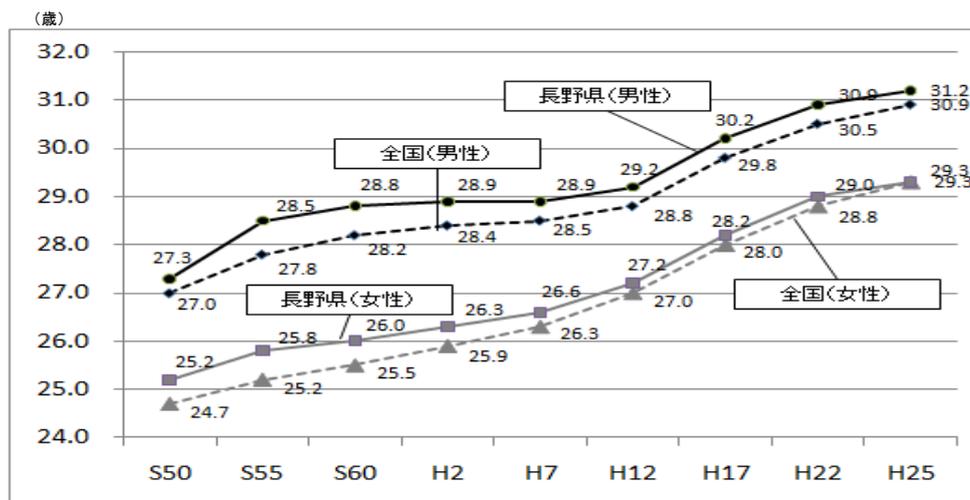
未婚者の割合は平成2年以降、特に男性で高くなっている。  
男性の5人に1人が**独身**。



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2012年版)」

#### 3-2 平均結婚年齢

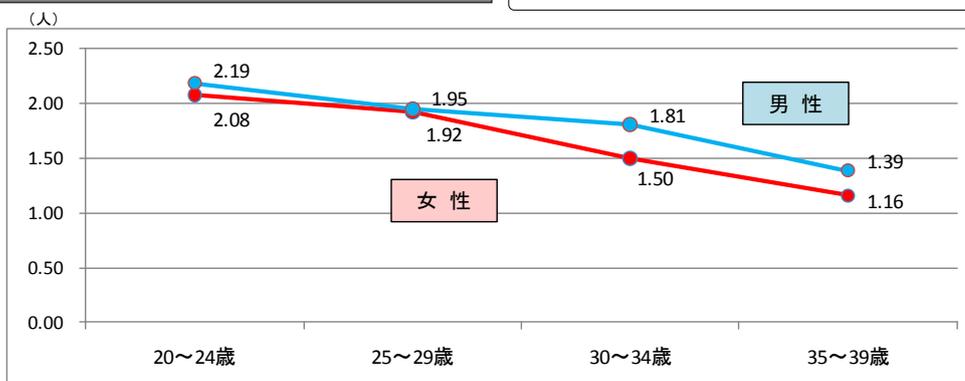
男女で結婚年齢は上昇。平成22年の女性は昭和50年と比べて**4歳上昇**。



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2012年版)」(H25は人口動態統計)

#### 3-3 結婚年齢別の平均子供数(全国)

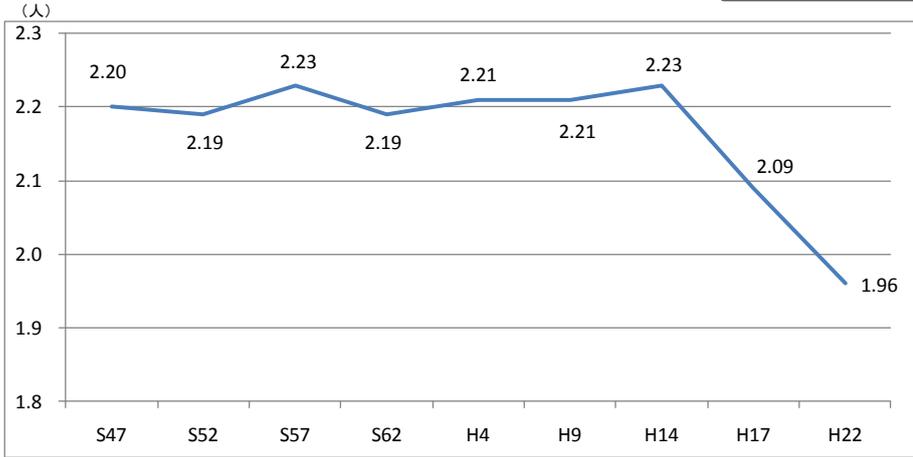
結婚年齢の上昇とともに、子どもの数は減少。



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「2010年出生動向基本調査」

### 3-4 婚姻夫婦による完結出生児数の推移(全国)

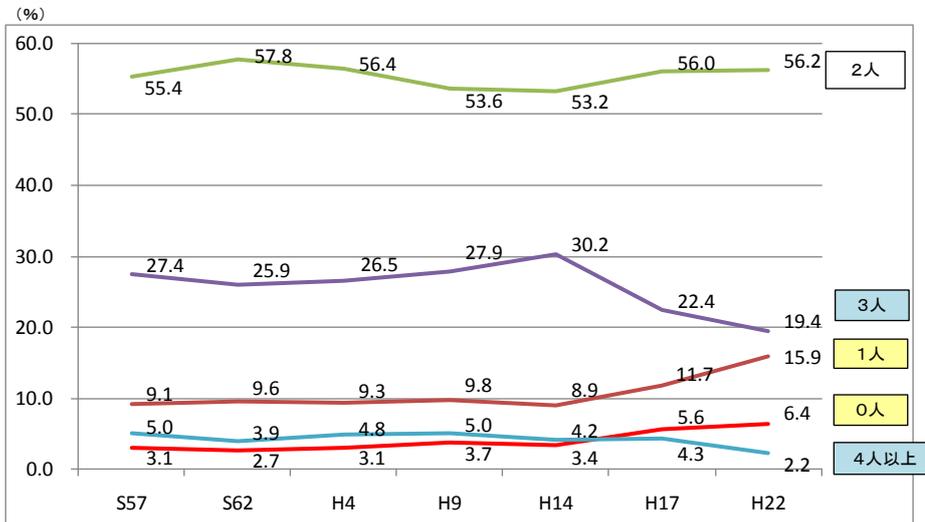
完結出生児数は2人を下回る。



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「2010年出生動向基本調査」  
夫婦の完結出生児数: 結婚からの経過期間が15年～19年の夫婦の平均出生子ども数

### 3-5 婚姻夫婦による出生子ども数別の推移(全国)

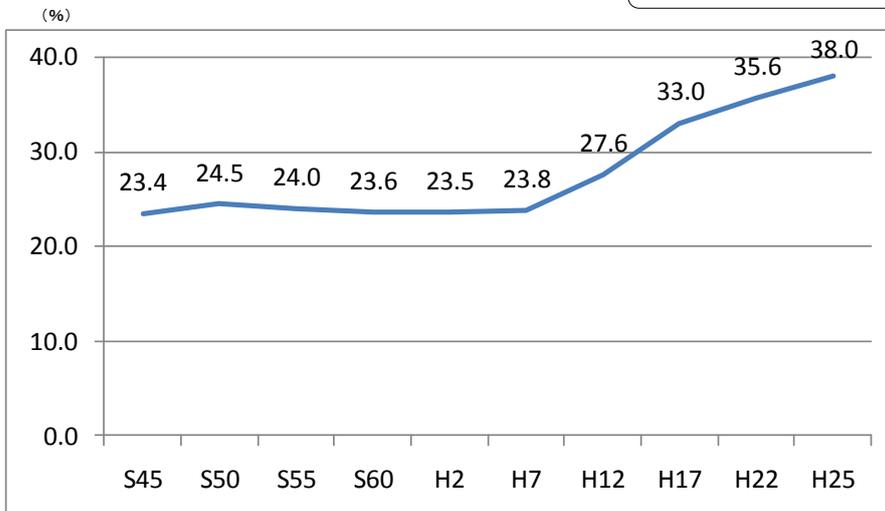
3人以上の割合が減少している。



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「2010年出生動向基本調査」

### 3-6 40歳以上初産の割合(全国)

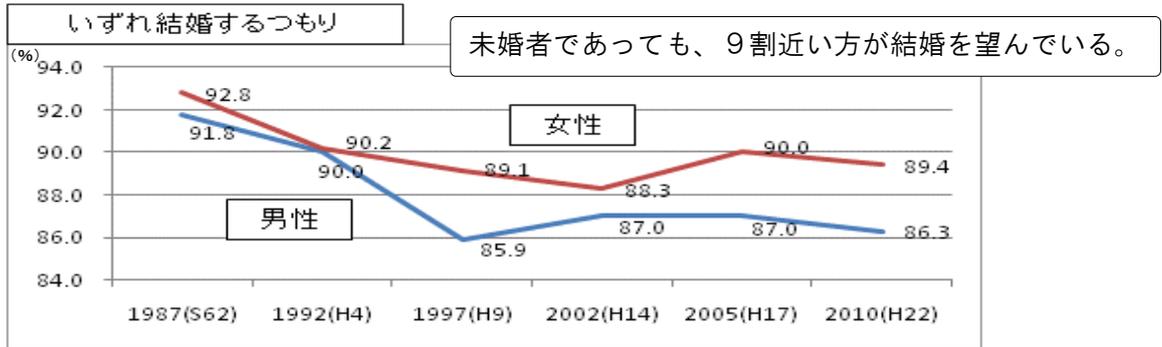
40代での第1子出産の割合が増加、晩産化の傾向が進行している。



厚生労働省「人口動態調査」

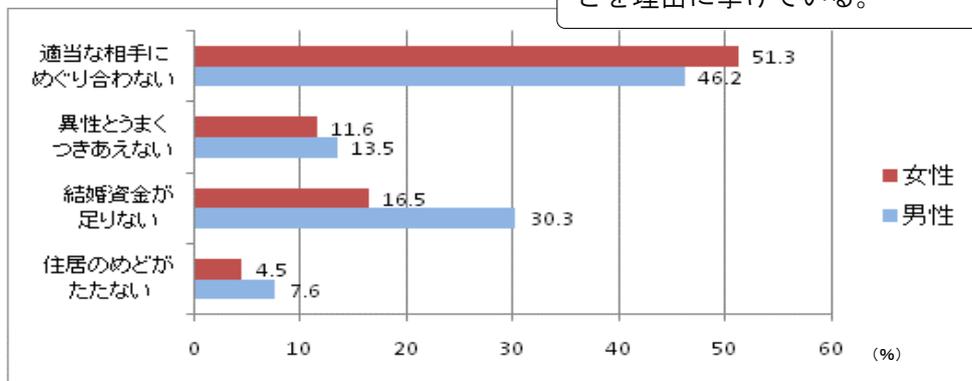
## 4 未婚者増の要因

### 4-1 結婚に対する意思(18~34歳、全国)



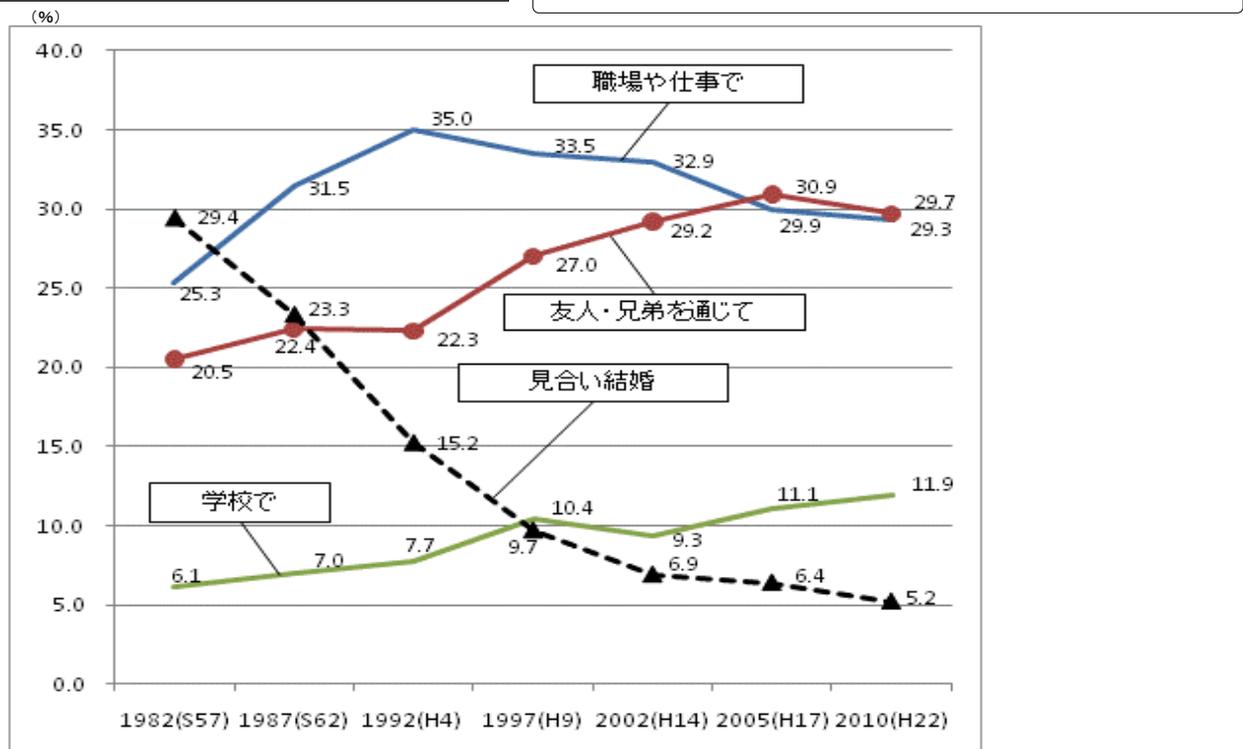
(資料)国立社会保障・人口問題研究所「2010年出生動向基本調査」

### 4-2 結婚出来ない理由(25~34歳、全国)



(資料)国立社会保障・人口問題研究所「2010年出生動向基本調査」

### 4-3 夫婦が出会ったきっかけ(全国)

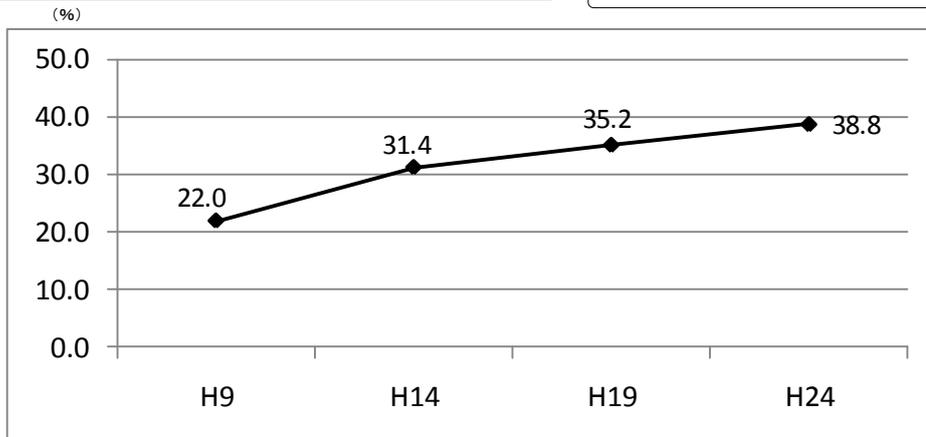


(資料)国立社会保障・人口問題研究所「2010年出生動向基本調査」

## 5 労働状況の変化

### 5-1 非正規雇用者の割合（長野県）

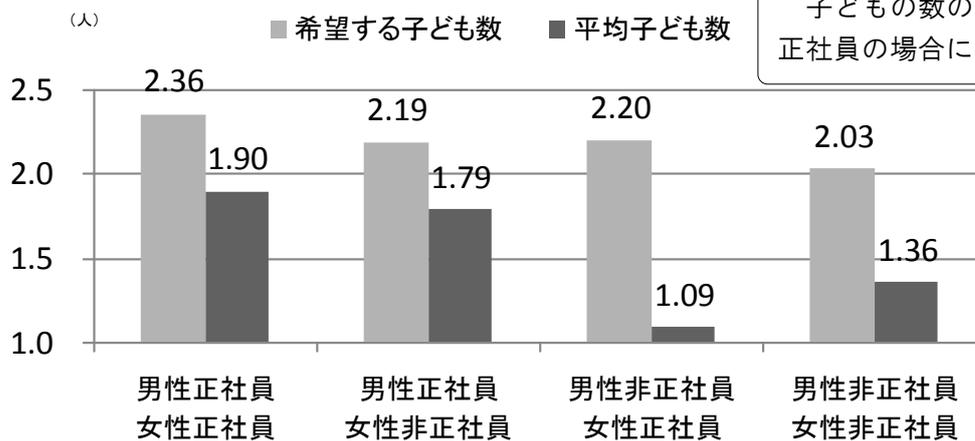
非正規雇用者の割合は増え続けている。



(資料)総務省「就業構造基本調査」

### 5-2 雇用形態別平均の子ども数、希望する子ども数（全国）

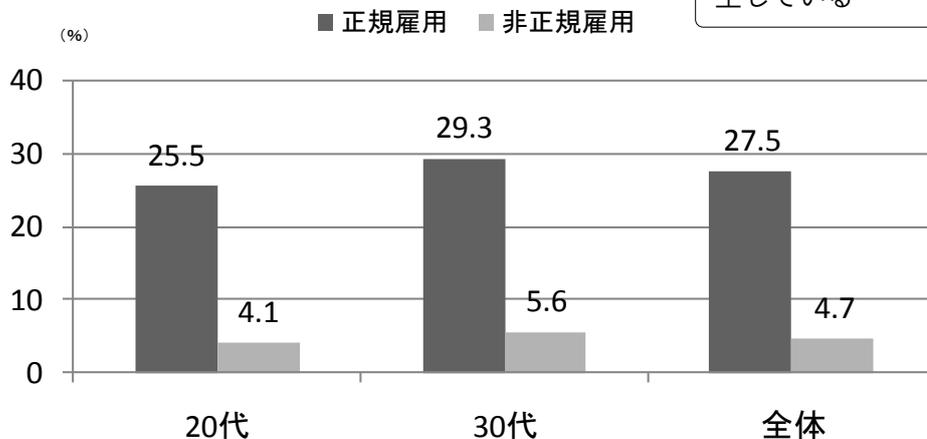
子どもの数の理想と現実は、男性が非正規社員の場合にその差が大きい。



(資料)厚生労働省「21世紀成年者縦断調査」(H24)

### 5-3 雇用形態別 婚姻率（全国・男性）

正規と非正規では、5倍以上の差が生じている



(資料)内閣府「結婚・家族形成に関する調査」(H22)